

2 学習プログラム

生きているからこそ ～自分を大切にしてください～

1 はじめに

人権尊重の理念である、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになるために必要な人権感覚は、子どもに繰り返し言葉で説明するだけで身に付くものではない。家庭をはじめ学校や社会の中で、子ども自身が自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感できるような状況を生み出すことが肝心である。個々の子どもが、一人の人間として大切にされているという実感を持つことができるときに、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生え、育つことが容易になるからである。

このプログラムは、犯罪被害によって息子を失った母親が語ることばかり、子を大切に思う親の気持ちを実感し、また人の命が突然失われることの理不尽さに気付くことにより、今ある命を大切に生きていくことの大事さを知ったり、「自分が生きていることには意味がある」など、自分自身を肯定的に捉えるようになっていたりすることをねらいとして作成したものである。

2 学習のテーマとねらい

(1) テーマ 「かけがえのない自分や他の人を大切に思う気持ちについて」

(2) 主な対象 小学校（中・高学年）

(3) 学習のねらい

自分や他者の命はかけがえのないものであることに気付き、自分らしく自信を持って生きていこうとする気持ちを持つ。

3 教材について

小学校中学年になると、現実性を持って「死」ということを理解できるといわれている。この教材は、平成11年3月、少年らによる集団暴行事件で息子（当時18歳）を亡くした市原千代子さんから、当時の様子やその後の思いを伺い作成したものである。

市原さんは、民間被害者支援団体である認定NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズの設立に尽力され、現在は、理事として運営に当たっている。

市原さんは、「これ以上、子どもたちを被害者にも加害者にもしたくない」という強い思いで、全国各地の学校等において数多くの講演を行っている。

また市原さんは、現在の子どもたちは自己肯定感が低い子どもが多いと言う。「自己肯定感をもたせてあげたい」と子どもたちの支援活動にも力を入れている。

取組例A（道徳）では、息子を他の兄弟とともにずっと大切に育ててきたことを描いた資料①を用いて、息子の命の重みを感じ、その命が失われたことがどんなに辛く悲しいことだったのかに気付かせたい。また、いじめや暴力によって命が失われることの理不尽さを感じ、自分や友達の名の大切さにも気付かせたい。

取組例B（学級活動）では、市原さんの命に対する思いを資料②に表し、「身体のぬくもり」を体感し生きているということを感じ取らせる。そして、自分にも友達にもかけがえのない命があり、今ある命を生き抜くことの大切さに気付かせたい。

取組例 A

道徳（主に中学年）

(1) 主題名 かけがえのない命（内容項目 3－(1)）

(2) 資料名 「みなさんに伝えたいこと」(資料①)
…市原千代子さんの講演原稿より作成

(3) ねらい

資料を読み、「大切に育ててきた子どもを失った親の悲しみ」や「いじめや暴力によって命が失われることの理不尽さ」を感じ、自他の命を大切にしようとする心を持つ。

(4) 活動

1 赤ちゃんの絵・写真等をもとに、これまでの経験から、病気やけがなど命に関わることや、命はどのように生まれてきたかなどについて想起し、本時は、自他の命について考えることを知る。

2 市原さんの話を読み、自他の命について話し合う。(資料①を読み、市原さんが子どもたちに伝えたいことについて話し合う。)

「市原さんは、息子さんをどのような気持ちで生み育てていたのでしょうか。」

<予想される児童の反応>

- ・今度こそ元気に生まれてきてほしいと願っていた。
- ・お腹にいるときから大事に育てた。
- ・お乳を飲ませることができてうれしかった。 等

「息子さんが亡くなったとき、市原さんはどんな気持ちだったのでしょうか。」

<予想される児童の反応>

- ・悲しい。
- ・なぜ死なないといけないの。信じられない。許せない。
- ・もっと生きていてほしい。生き返って。 等

<留意点>

命が突然失われることの理不尽さや、身近な人が亡くなったときの苦しみ悲しみについて、これまでの経験を想起したり、想像したりしながら話し合う。(児童が過度の心配をしないよう、個々の実態に即して話をする。)

「市原さんが『みんなに伝えたいこと』は、何でしょうか。」

* 児童の発言を通して、市原さんは「手のあたたかさ」や「手の動き」を、命（生きていること）の象徴と捉えていることを確認する。

<予想される児童の反応>

- ・あたたかさや動きは生きていることの証拠であることを知ってほしい。
- ・手で人をいじめたり暴力を振るったりすることもできるけれど、そんなことは絶対にやめてほしい。
- ・あたたかさを大切に持ち続けてほしい。
- ・どんなことがあっても生き抜いてほしい。 等

3 実際に、両手を合わせるなどして、身体が温かく動いていることを確認し、自分や友達の命を感じる。(市原さんは講演のときに手を合わせることを体験させ、命を実感させる。)

<予想される児童の反応>

- ・ぬくもりを感じるよ。
- ・これが「生きている」ということだね。 等

<留意点>

子どもの状態に配慮し、「ほおに手などを当てる」「自分を抱きしめる」「友達同士肩を組む」等、方法を工夫して命を実感できるようにする。

4 教師の話聞く。

*学習のまとめとして、「市原さんに手紙を書く」活動を行うこともできる。

取組例B 学級活動(主に高学年)

(1) ねらい

- 今の自分を見つめ、これからも自分らしく生きていこうという気持ちを持つ。
- 自分の大切さを感じるとともに、他の人も同様に大切な存在であることに気付く。

(2) 活 動

1 資料②を読み、手を合わせたときの感想を話し合う。

<予想される児童の反応>

- ・あたたかいよ。 ・本当だ、動いているね。 ・強く握ると痛いよ。
- ・くすぐったい。 ・お母さんと手をつないだことを思い出した。 等

<留意点>

各自が感じたことが生きている証であると市原さんは言っていることを確かめ、死んでしまうということは、そこからいなくなってしまうことであることにも気付かせる。

2 題にある「みなさんに伝えたいこと」とは何かについて話し合う。

*市原さんの思いをしっかりと考えることができるようにするため、ワークシート（資料③）を用意し、自分の考えを書いてから話し合うとよい。

<予想される児童の反応>

- ・みんなに同じ「いのち」があるということ。
- ・生きて、生きて、生き抜いてほしいということ。
- ・「いのち」を奪う人にも、奪われる人にもなってほしくないということ。 等

3 自分の命（＝自分）を見つめるため、「自分というものを表すことば」を思い付くだけワークシート（資料④）に書く。

*自分のよい面だけでなく、自信のないところや直したいと思うところも記入する。

*たくさん思い付くように、教師がいくつか例を示すのもよい。

例：○自分らしいところ ○ちょう戦したいこと ○ちょっといやなところ
○楽しいと思うこと ○こんな人になりたいと思う人 ○すきなこと 等

4 ワークシート（資料④）を示しながら、自己紹介をする。

*記入したことをもとに、話す順番を考えてから始める。教師が手本を示すのもよい。

5 質問をする。

6 友達のよいところ・がんばっているところについて伝え合う。

*自分が言われてうれしいことやがんばろうという気持ちが生まれるようなことを伝えるように声かけをする。

*伝えてもらったら、必ず感想を返すようにする。

*友達からのことばは、ワークシート（資料④）に書いておく。

7 活動を通して、気付いたことをワークシート（資料③）に書き、発表する。

*他者（周りの友達）の大切さについて、ワークシート（資料③）に記入しているものを取り上げ紹介することで、他の人も大切な存在であることに気付かせる。

参考HP

○「認定NPO法人おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ」
<http://www.npo-families.com/>

資料① 「みなさんに伝えたいこと」

わたしは一九七五年にけっこんしました。一番目の子どもがすぐ次の年に生まれまして。早く兄弟をつくってあげたいと思っていましたが、おなかにできた赤ちゃんを一回もなくしてしまい、悲しい思いをしていました。そんな時にこれからお話する一番目の子どもができたのです。

おなかの中にいる時から大事に育てました。そして元気なうぶ声とともに生まれてきてくれました。一九八〇年一月の夜の九時ごろのことでした。息子の元気なき声病院中にひびいていたのを今でも覚えています。やつと朝になり、赤ちゃんをだいてお乳を飲ませた時、とてもうれしかったです。

それから、わたしは子どもたちを大切に育てました。三年後に妹も生まれ、みんなで楽しく幸せな日が続きました。

しかし、息子が高校生になったとき、いじめにあうようになりました。友だちが大好きな子で、楽しく過ごしているようでしたが、ある日、目の下をたたかれて、真っ黒にして帰ってきました。ようすを聞くと

「ふざけていて。」

とだけ答えました。

友だち思いな子で、その友だちが試験に合格するように、プリントをすぐにとどけてあげたいから車で送ってほしいと、わたしにたのんできたこともありました。やさしい子どもでした。

二度目は友だちになぐられて左目の奥の骨を折ってしまいうけがをしました。

そして一年くらい後のことですが、息子は自分より少し年上の人や同級生の人によびだされ、なぐられたりけられたり、川に落とされたりしたのです。

病院にかけつけたとき、「どうしてこんなになるまで。」と思うほど、息子の体はひどいようすでした。

次の日に息子は息をひきとりました。

わたしは、息子が死んだことを信じることができず、「まだ体はあたたかいのに。」と

思いながら、何度も何度も足をさすりつづけました。「生き返ってほしい。」「どうして声をだしてくれないの。」と心の中でさげびつづけていました。

みなさん、手を合わせてみてください。あたたかくないですか。右手で左手をにぎってください。動いていますね。それが生きているということです。死んでしまうということは、その手が氷のように冷たく、動かなくなり、そして、そこからなくなってしまうということです。

「手」というものは、よいこともわるいこともできるのです。人をだいたり、なぐったりすることもできるし、大人になって車を運転していて、人の命をうばってしまうこともあります。よいこともできます。大きくなって好きな人と出会って手をつなぐこともできるのです。

みなさんがいじめやぼう力で大切な命をおとすことがあつてはならないと、わたしは強く思っています。わたしの息子もきつとそう思っています。

自分を大切にしてください。生きていると、つらいことや苦しいことがあるかもしれません。だから死んでしまいたいと思うようなこともあるかもしれません。でも、そういうふうに思ったら、勇気を出して、周りの人に「助けて」と声に出して伝えてほしいと思います。相談をすればいいのです。

生きてさえいれば、きつと先には良いことやうれしいことがあるはずです。わたしも息子がなくなった後、あれほどつらく悲しく苦しかったのに……やつぱりうれしいこともあります。

それは、人と会うことができることです。みなさんと語り合えることがうれしいのです。

だから、悲しいことがあつても苦しいことがあつても、みなさん一人一人に与えられた命をおじいちゃんおばあちゃんになるまで生きぬいてほしいです。どんなにつらく苦しくても生きて生きて生きぬいてほしいと思います。

そういうふうに、元気に生きているみなさんとどこかで会うことがあるといいなと思っています。

資料② 「みなさんに伝えたいこと」

市原千代子さんは、平成十一年三月、当時十八才だったむすこさんを、同級生ら三人によるぼう力で失いました。息を引きとったむすこさんを見ても信じられず、「まだ体はあたたかいのに」と心でさげびながら、何度も何度も足をさすり続けたそうです。むすこさんがこの世からいなくなることが、どうしてもがまんできなかつたのです。

その後市原さんは、「いなくなったむすこにかわって、むすこの思いをうつたえるために、みなさんに話をさせていただこう」と考え、「おかやまはんざいひ害者サポート・ファミリーズ」の活動にかかわり、一年間に百回近くいろいろな学校に行つては、子どもたちに「命の授業」を行つています。

市原さんは、子どもたちにどんな話をしているのでしょうか。ちよつと聞いてみましょう。

「みなさん、手を合わせてください……「読んでいるみんなもやってみましょう」

どうですか。温かくないですか？ 右手で左手をぎゅつとにぎつてみてください。動いていますね。それが生きているということです。死んでしまうということは、その温かい手が氷のように冷たく、動かなくなってしまうということです。そして、その手がなくなるといふことです。

私は子どもが生まれてきたとき、元気なうぶ声を聞き、ちつちやな手が元気に動いているのを見て、本当にうれしく思いました。だから、むすこもむすめもいつしようにけんめい大切に育てました。それは、みなさんの場合も同じではないかと思ひます。

でも、もう一つ覚えておいてください。その手はぼう力をふるうこともできる手です。車を運転して事ごを起こし、だれかの命をうばうかもしれない手なのです。わたしはみなさんに、いじめやぼう力のひ害者にも加害者にもなつてほしくないのです。むすこのようなつらい思いをする子や、命をうばわれる子を一人も増やしたくないし、私のようにつらく悲しい思いをする親も、もう増やしたくありません。だから、私はこうして、みなさんのところへ『いのち』を語りに来たのです。

生きていくことは、つらいこと、悲しいこと、苦しいこと、しんどいこと……たくさんあると思ひます。その結果、死んでしまいたいと思ふことがあるかもしれません。でもそんなふうと思つたときは、まわりの人に『助けて』と伝えたり相談したりしてほしいと思ひます。お父さんやお母さん、先生や友達には、心配やめいわくをかけてはいけないから、子どもは意外に相談しないということを知りました。だから私は言ひます。『勇気を出して、まわりの人に助けをもとめたり相談したりしてください。』

生きてさえいれば、きつと、良いことやうれしいことがあります。わたし自身、むすこを失つた後、あれほどつらく悲しく苦しかつたのに……、やつぱり良いことやうれしいこと、楽しいこと……ありました。それは、たくさんの人に会ふこと、みなさんに語りかけることができることです。

みなさんも与えられた命を途中で落とすことなく、あなたの『いのち』を生きてほしいです。どんなにつらく苦しくても、生きて生きて生き抜いてほしいと思ひます。そういうふうには、元気で生きているみなさんと、会えるといいなと思つています。

今日は、私の話をきいていただき、ありがとうございました。」

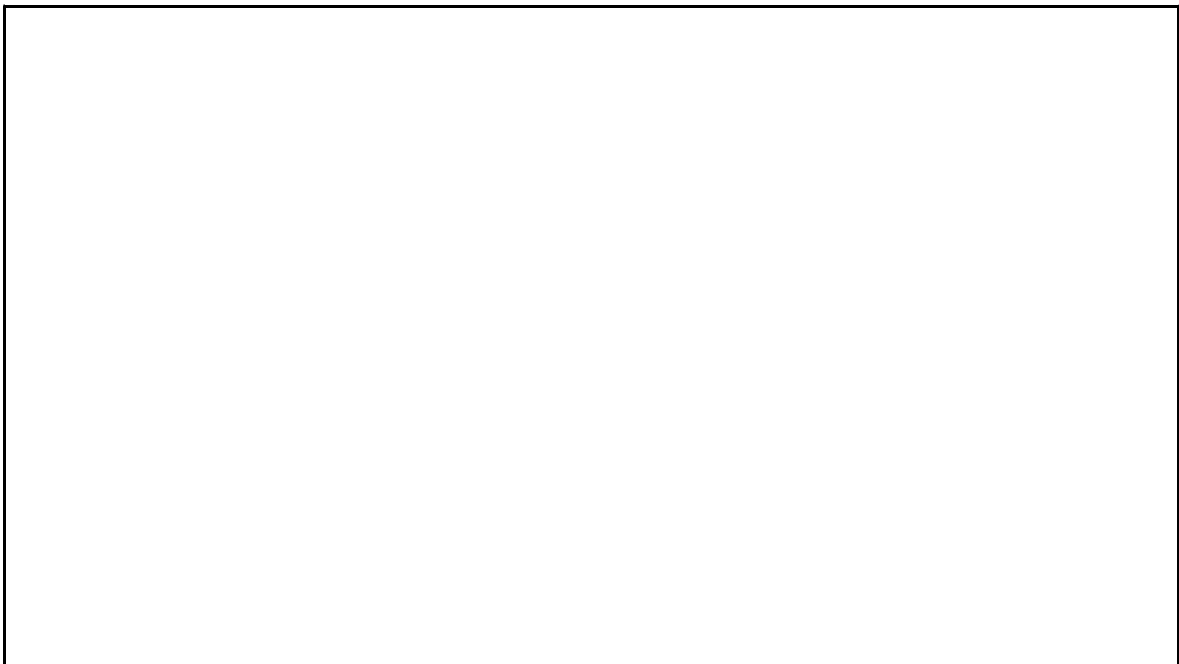
かけがえのない自分を見つめよう

年 組 番 氏名 _____

- 1 市原さんが「みなさんに伝えたいこと」とは何でしょうか。



- 2 今日の活動を振り返って、感想を書きましょう。



わたしの木

現在の「自分」を表してみよう

記入例（たとえば…）

- 自分らしいところ
- 楽しいと思うこと
- 好きなこと 等…
- ちょう戦したいこと
- ちょっといやなところ
- こんな人になりたいと思う人

※はっぱの中に、自由に書いてみましょう。

（友達からのことばは、木の根元に書きましょう。）

